

季刊

# じぱ

Japan Intellectual Property Association

理事's eye

別宮 智徳

日本知的財産協会 理事長／  
日産自動車株式会社 知的財産部 部長

JIPA TOPICS

JIPA環境シンポジウムの開催

ZOOM UP

関西化学部会

JIPA通信

オンライン知財英語研修のご案内

AUTUMN

2021

VOL.19





## JIPAの運営には、経営やビジネスの視点も必要。 SDGsへの知的財産の貢献を探求するJIPAの新たなプロジェクトが始動。

### JIPAの運営に必要な3つの視点

世界有数の知的財産ユーザー団体であるJIPAの会員数は2021年7月時点で1347にのぼり、その会員企業は幅広い業種にわたっています。これら多岐にわたるJIPAの会員に有益な活動を推進し、成果を提供するためには、全体を俯瞰する「鳥の目」とバランス感覚が求められます。

また、JIPAの専門委員会や政策プロジェクトの活動では、様々な問題を現場目線でミクロに捉える「虫の目」で分析し、専門性の高い調査・研究や政策提言を行っています。

一方、近年、多くの企業がSDGsを踏まえた経営、事業を推進しており、知的財産による貢献も期待されています。このような環境変化や社会の動きに迅速に対応するためには、変化の流れをタイムリーに捉

える「魚の目」の視点が求められます。

「鳥の目」「虫の目」「魚の目」は、経営やビジネスに必要な3つの視点と言われているますが、JIPAの運営においても当てはまる考え方と思います。

### 知的財産はSDGsを推進するエンジン

今年度、JIPAの新しいプロジェクトとして、SDGsプロジェクトが設立されました。SDGsプロジェクトでは、WIPO GREENやSDGsに関する情報を積極的に会員企業に提供し、各企業の活動をサポートしていく計画です。

SDGsには17のゴール(目標)がありますが、これらは5つの「P」で整理できます。即ち、SDGsは、**P**eople(人間)、**P**lanet(地球)、**P**rosperity(豊かさ)、**P**eace(平和)のための目標を、国際社会の

**P**artnership(パートナーシップ)により実現しようというものです。

これら5つの「P」を知的財産活動に照らし合わせると、知的財産によるSDGsへの貢献の可能性が見えてくると思います。企業がESG(環境、社会、ガバナンス)経営を求められる中、知的財産制度は、単に産業の発展に寄与するという次元を飛び越え、人々の健康、地球環境の保護、豊かさ、平和の実現のため、協力の輪を広げるエンジン(原動力)になるのではないのでしょうか？

SDGsは、「2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」として、2015年に国連で採択されたものです。目標年まで10年を切った今、JIPAとしても、SDGs達成に貢献できる具体的な活動を推進していきたいと考えています。



## 「JIPA理事としての視点」 「知財部門のリーダーとしての視点」 2つの視点で深掘りする知財業界の今

別宮 智徳

Tomonori BEKKU

日本知的財産協会 理事長

日産自動車株式会社 知的財産部 部長

## 自動車業界は大変革の時代を迎えており、 高度化・複雑化する知的財産業務を担う人財の育成が大きな課題となっている。

### 自動車業界は大変革の時代

知的財産は、企業にとって極めて重要な資産であり、企業の持続可能性の鍵を握っていると言っても過言ではないでしょう。よって、企業活動の中で、知的財産の創出、保護、活用を推進するにあたり、そのガバナンスを強化し、適切なマネジメントを行うことは、重要な経営課題の一つです。企業における知的財産部門の位置付けは、重要度が増しています。

私は、自動車業界で知的財産に関する仕事に携わり30年以上が経ちますが、近年の自動車業界における環境変化は目を見張るものがあります。日産自動車は、以前から自動車の電動化(EV、HEV、FCV)と知能化(運転者支援技術、自動運転)に取り組んで来ましたが、近年、CASE(Connected, Autonomous, Shared

mobility, Electrification)と言われるように、自動車に関連したサービスや、インターネットとつながるクルマが登場し、100年に一度の大変革の時代に突入しています。

### 高度化・複雑化する知的財産業務

自動車会社の知的財産部の業務も、対象とする技術分野や商品・役務が拡大したことに伴い、大きな変革の時を迎えています。知的財産部員は、AI、データサイエンス等の新たな技術、データ利活用と不正競争防止法といった法律の観点、さらには、技術の普及(オープン)と競争力の維持(クローズ)を使い分ける戦略の立案等、今までにない幅広い知識とスキルを求められています。より高度化・複雑化する知的財産業務を遂行する組織・体制を強化していくため、次世代を担う人財の育成が大きな課題になっています。

### モチベーションが成長の原動力

知的財産に限った話ではありませんが、モチベーションが人の成長の原動力であることには疑問の余地はないと思います。知財部門のリーダーになって間もないころ、『やるべきこと、やりたいこと、できることの3つの輪が大きくなり、その重なりが増えるほど、人は仕事を面白いと感じる』という話を聞き、それ以来、機会があれば部下にも伝えていきます。人材育成は一朝一夕には結果がでませんが、根気よく取り組むべきものと思っています。

日産自動車のコーポレートパーパスは、「人々の生活を豊かに、イノベーションをドライブし続ける。」です。知的財産部門もイノベーションのドライバーであるとの自覚のもと、日々チャレンジしています。



## JIPA環境シンポジウムの開催



### 開催の背景

JIPAでは今年4月に、知財からSDGsに貢献したいという会員企業の熱意をうけ、「SDGs プロジェクト」を発足しました。JIPAには10年ほど前に環境関連のプロジェクトがあり、JIPAがWIPOに提案して2013年に設立されたWIPO GREENの立ち上げのサポートの後に解散しており、本プロジェクトはこの後継となります。

WIPO GREENは、発足直後から2つの障壁が存在していました。一つは、技術の紹介は特許用語が多く難解で更に英語であること、もう一つは、残念ながら技術を使うビジネス側の方々は知財サイトを訪れることが少ないことです。この障壁克服について、民間セクターであるJIPAがWIPOをサポートできるのではないかと考えていましたが、実際の活動には繋がっていませんでした。

同月、当時特許庁長官の糟谷様より意見交換の機会をいただき、日本がホスト国の6月のIP5開催に合わせて、環境と知財のイベントを開催したいとお話から、プロジェクト最初の活動となる今回のJPO・JIPAのダブルイベントへとつながりました。

### JIPA環境シンポジウム

今回は、世界の主要な関心事項である海洋汚染をテーマに選びました。現在、無秩序なゴミの山が渦巻く海域、通称「太平洋ゴミベルト」は、大きさはフランス国土の3倍、重量にするとジャンボジェット機500機分相当といわれるほど問題は深刻化しています。

今回のシンポは、現状の理解および各社の優れた環境技術を使いあい問題解決をするための連携の加速を目指していました。目標に向け、メンバーでアイデアを出し合い、各社のWIPO GREEN登録技術を出来るだけビジュアル化し、分かりやすく説明した5分間のビデオを作ることにしました。ナレーションやアニメーションを入れるなど、SDGsメンバー各々が工夫を凝らし作成したビデオは、ご参加の皆さまに技術の魅力を届けるとともに、多くの共感をいただきました。

加えて、技術を使う側として、日本のCLOMAとカリブ海・西インド諸島の海洋汚染対策の米国のチームから活動紹介をいただき、WIPOからはWIPO GREEN Databaseの進化について説明いただきました。

ライブ配信のトラブルを避け、更に、世界中の方が視聴できるように、すべてのビ

デオに英語と日本語字幕をつけ、6月17日から1週間程、ビデオ配信しました。このような方法で行ったイベントはJIPAにおいても初の試みで、アクセスは知財の枠を超え28ヶ国から1,918いただき、過去最大規模のイベントとなりました。

また、Hondaビーチクリーナーの技術を登録している本田技研工業株式会社がヤマハ発動機株式会社と、WIPO GREENの活用含め海洋・湾岸環境保護に関する技術を通じて連携して活動していくことに合意がされるなど、準備の過程においても、新たな連携が生まれました。各社の技術紹介動画と資料は協会HP\*から現在もご覧いただけます。

JIPAシンポに続き、翌6月18日にはJPO主催「国際知財シンポジウム～WIPO GREENを通じた環境問題解決への取り組み～」が開催されました。JIPA 榎山会長による基調講演とともに、パネルには久慈専務理事および各国から知財エキスパートが参加しました。

### SDGsプロジェクトの今後に向けて

JIPA SDGsプロジェクトは、大きなイベントの成功に感謝と安堵するとともに、次のステップである、更なる連携、技術の実際の活用へと躍進していきたいと考えております。地球に生きるうえで、環境問題へは誰も背をむけることは出来ません。知財は、先を見渡せる広い視野を持ち技術を適切に整理することのできるツールであり、共有するためにも上手く機能します。知財を社会に役立つように使うのは、私たちの使命でもあります。表現を変えると私たちは地球を救うヒーロー(それぞれの年代にあわせてご想像を)になるのです。もし皆さまが、プロジェクトにご興味いただけましたら、ぜひJIPA事務局にお声がけ下さい。

赤井 宣子 Noriko AKAI

日本知的財産協会 総務グループ チーフ

**JIPA環境シンポジウム (6月17日開催)**  
JIPA GREEN Symposium ~Using WIPO GREEN for Clean Ocean~

|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1. 開会挨拶</b><br>JIPA会長 榎山 正樹(三菱電機(株))                                                                                                                                      | <b>5. 各社における環境対策の具体的な技術紹介</b><br>JIPA SDGsプロジェクトメンバー:<br>(株)日立製作所、本田技研工業(株)、富士通(株)、中国電力(株)、パナソニック(株)、(株)リコー、キヤノン(株)、ソニーグループ(株)、トヨタ自動車(株)、ダイキン工業(株)、JX金属(株)、三菱重工業(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、武田薬品工業(株)、ユニ・チャーム(株)、(株)カネカ、RPXアジア(株) |
| <b>2. 我が国の資源循環政策について</b><br>日本国特許庁 長官 糟谷 敏秀 氏<br>経済産業省 資源循環政策課 課長 横手 広樹 氏                                                                                                    | <b>6. 技術とソリューション探求者を特定し結びつけるツール</b><br>WIPO GREEN<br>世界知的所有権機関 ビーター・オクセン 氏<br>(WIPO, Senior Program Officer for Climate Change and Food Security)                                                                       |
| <b>3. (1) 海洋ゴミ・プラスチック対策における技術・知財の果たす役割</b><br>SDGsプロジェクトメンバー 川村 裕一郎 氏<br>(JIPA元 副理事長・WIPO GREENプロジェクトリーダー)<br>(2) カリブ海でのプラスチックゴミ対策への取り組み<br>IP*SEVA 米国オフィス代表・創設者 シンシア・カナディ 氏 | <b>7. 閉会挨拶</b><br>JIPA専務理事 久慈 直登                                                                                                                                                                                        |
| <b>4. CLOMA (Japan Clean Ocean Material Alliance) の活動</b><br>～海洋プラスチックゴミ問題への企業の挑戦～<br>CLOMA技術統括 柳田 康一 氏                                                                      |                                                                                                                                                                                                                         |

\* [https://www.jipa.or.jp/jyohou\\_hasin/sympo/wipo\\_green/pdf/210617\\_wipo\\_2nd.pdf](https://www.jipa.or.jp/jyohou_hasin/sympo/wipo_green/pdf/210617_wipo_2nd.pdf)





## 会合は瞬間、人脈・交流は習慣、未来にも活きる部会活動の推進を！

関西化学部会は、西日本を拠点とする化学メーカーを会員とする業種別部会の1つです。会員企業は「化学」という名のもとに一括りにされることも多いのですが、「一般化学」、「繊維」、「製薬」と3つの部会に分かれています。それぞれ技術的な共通点こそあるものの、製品という観点からは異業種と言っても過言ではないところが当該部会の特徴です。また、所属する会員は、関西圏に留まらず中国・四国地区、九州地区と広範囲にまたがり、その会員数は121企業

(2021年6月現在)と業種別部会の中では大所帯に位置します。

昨年度はCOVID-19の影響で活動に少なからず支障をきたしましたが、そういう状況から様々な工夫や効率化が検討されました。今年度はそれらを糧とし、会員企業への「各種知財情報の提供」と「交流の場の提供」といった基本方針を変えることなく柔軟な考えで活動を推進しています。

さて、今年度は、第1回の会合を6月に開催しました。開催形態について幹事内で悩みに悩んだ末、臨場感に欠けるといった懸念もありましたが、昨年度末に集合/WEBのハイブリッド開催の知見を活かしてWEB開催(のみ)にて実施することとしました。結果的には、現地への移動がないといった利点が功を奏したのか、参加企業数は半数を超え、参加者数はなんと141名(幹事を除く)と、

通信不具合が出るのでは？と幹事が嬉しい悲鳴をあげるほど大盛況でした。

今回の部会では更にひと工夫！関西化学部会の会合であることから、通常であれば化学に関連する講師を選任することが多いかと思いますが、今回は異業種の住友電気工業(株)から荻野氏を講師に迎え、「実践に基づいたコンサル型人材育成—中間処理から見える、知財戦略—」という題目で講演を行っていただきました。参加された皆様にとって、化学という枠にとらわれることなく、広い視点で知財人材育成を考える一助になったと感じています。残念ながら「交流の場」の提供には至りませんでした。これは日を改めての合同開催を予定しています。

今年度は残り3回(例年1回は関西三業種部会にて)の部会を計画しています。形式的な会合ではなく、参加者にとって生産的な会合を提供するため鋭意検討中です。



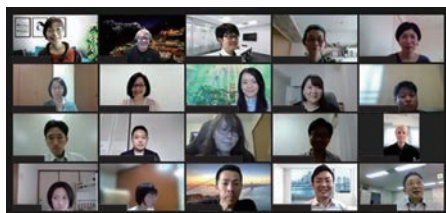
関西三業種部会での見学会の様子  
@宇部興産ダブルストレーラー整備場

## JIPA通信 オンライン知財英語研修のご案内

昨年度はコロナ禍により、海外現地訪問・滞在型研修(Fコース)が中止となり、これに代わる研修として、現地へ行かずとも同等の研修を行うオンライン知財英語研修(Mコース)を立ち上げました。本研修にはMO1(米国)、MO2(欧州)、MO3(総合)と3つのコースがあり、英語で話す抵抗感をなくし、適切な専門用語や法律用語を使って、現地代理人や交渉の相手方に伝えるべきことを英語で伝えるために必要なスキルを身に付ける体験型研修となっています。

11/22よりMO2(欧州)コースの募集を開始します。

お申し込みをお待ちしております。



オンライン知財英語研修 総合コース

## 表紙の写真は…

### 「大観峰からの眺め」

花王株式会社 知的財産部  
吉田 聡

大観峰は立山黒部アルペンルートの中でも特に眺めの良い場所です。現代では、立山ロープウェイなどの公共交通機関を利用して簡単にここに行くことができます。でもこの辺りは山深く険しい山岳地帯であり、歩きでは熟練の登山家であっても簡単にはたどりつけない秘境です。この秘境に公共交通機関が整備されたのは、黒部第四ダム建設のために工事用トンネルが掘削されたのがきっかけです。破碎帯からの大量の地下水と土砂の噴出に打ち勝ち、ダム建設を完結した関係者の技術力と苦勞に思いをはせながら、見事な紅葉を楽しんではいかがでしょうか。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を[会誌広報グループ kikansi@jipa.or.jp宛](mailto:kikansi@jipa.or.jp)てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.19  
AUTUMN 2021  
2021年10月15日発行

編集人：一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会  
発行人：一般社団法人 日本知的財産協会内 久慈 直登  
<http://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html>  
印刷&DTP：NPC 日本印刷株式会社